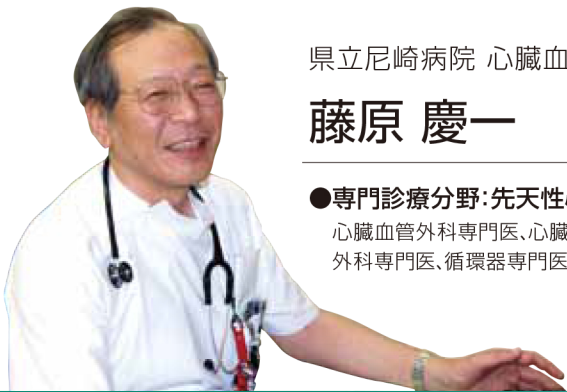


心臓
センター

心臓血管
外科

新生児から高齢者まで、 あらゆる心臓の病気と闘います

心臓血管外科は、昭和43年の開設以来、本邦における循環器疾患の外科治療をリードしてきました。特徴は、新生児から超高齢者まで全年齢層において、先天性及び後天性心疾患、大血管疾患、末梢血管疾患など、およそ全ての循環器疾患を対象にしていることです。新病院では、塚口病院の小児科、産科と統合し、周産期医療の充実が見込まれます。今でも24時間緊急対応を行っています。今後救急部門が整備されるため、成人の急性疾患に対してもこれまで以上に迅速な対応が可能になります。

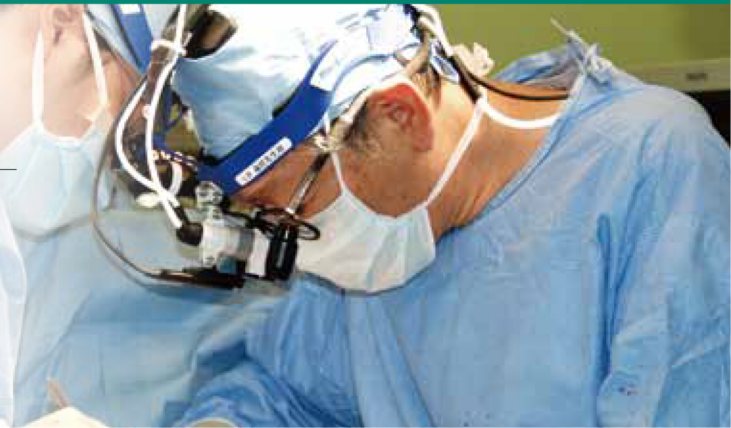


県立尼崎病院 心臓血管外科科長

藤原 慶一

●専門診療分野:先天性心疾患全般

心臓血管外科専門医、心臓血管外科修練責任者
外科専門医、循環器専門医、外科学会指導医



県立尼崎病院 心臓血管外科部長

大野 暢久

●専門診療分野:成人心臓血管手術全般

心臓血管外科専門医
心臓血管外科修練指導者
外科専門医



診療内容の紹介

先天性心疾患と成育医療

複雑な心疾患の手術件数が多く、いずれも良好な成績を上げています。成人期以降に、先天性心疾患特有の内科的フォローや追加治療が必要になる症例が増加しており、小児循環器科と密接に連携して成育医療を行っています。

後天性心大血管疾患と低侵襲治療

高齢ハイリスク症例や、就労年齢で早い社会復帰を望まれる若年症例に対し、体に優しい低侵襲治療に取り組んでいます。オフポンプ冠動脈バイパス術、内視鏡を併用した小切開弁膜症手術、大動脈瘤のステント治療等は既に取り組んでいますが、新病院のハイブリッド手術室では、大動脈弁狭窄のカテーテル治療を行う計画です。

対象とする疾患

先天性心疾患では、完全大血管転位や総肺静脈還流異常などの複雑心奇形が多く、心房中隔欠損や心室中隔欠損疾患に対するの小切開手術の経験も豊富です。また、成人先天性心疾患に対する外科治療や経過観察例が多いのは当科の特徴の一つです。

後天性心疾患では、狭心症に対する冠動脈バイパス術、心筋梗塞での心室中隔穿孔や心破裂などの緊急手術、僧帽弁閉鎖不全の弁形成や大動脈弁狭窄に対する弁置換術などを行います。ハイリスクで手術が困難な大動脈弁狭窄例には、最新のカテーテルによる人工弁置換術の導入を新病院で予定しています。



後列左から：吉澤医師、石道医師、川崎医師、村山医師、羽室医師、夫津木医師
松岡医師、稲熊医師、植野医師
前列左から：藤原医師、大野医師